

ネットワークコミュニケーション

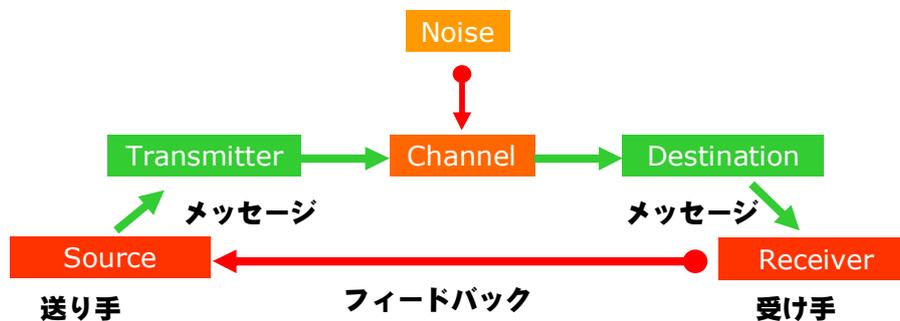
第4回：コミュニケーションにおける いくつかの試案的公理

2006年秋学期
担当：加藤文俊
102306

一般的なコミュニケーションのモデル
シャノン=ウィーバーのモデル

2/30

- コミュニケーションは「伝達」である...というメタファーが支配的



The Mathematical Theory of Communication (1949)

keio university fklab

- “ネットワークコミュニケーション” について語る準備として
- 「公理」...作業用の基本前提
 - Watzlawick, Bervin, & Jackson (1967) *Pragmatics of Human Communication* / 山本和郎 (監訳) 『人間コミュニケーションの語用論』 (1998, 二弊社)

- コミュニケーションしないことの不可能性
- コミュニケーションの内容と関係のレベル
- 連続した事象の分節化
- デジタルおよびアナログ・コミュニケーション
- シンメトリー的およびコンプリメンタリー的相互作用

- One cannot **not** communicate
- すべての行動はコミュニケーションである。
- いかなる行動もメッセージ性をもつ。
 - 〈行動しない〉ということも、〈行動〉として理解することができる。
- コミュニケーションせざるをえない

- 混んだ店で昼食をとりながら真っ直ぐ前を見ている人や、目を閉じて座っている飛行機の乗客は二人とも「誰とも話したくない、話しかけられたくない」という情報を送っているのである。
- そしてたいていの場合、そばにいる人はそのメッセージを受け、その人たちをひとりにさせておくという適切な反応をしているのである。
- これは、明らかに活発な討論と同じく、情報の交換なのである。(p. 32)

- 2004年度の掲示板のデータから
- 書き込み数／カウンタ数から何がわかるか
- RAM (Radical Access Member) とROM (Read Only Member)
- 「読むだけ」という参加方法：存在感

- パソコン通信上のコミュニケーション
 - 川上ほか（1993）『電子ネットワーキングの社会心理』（誠信書房）
- 利用上の問題点として指摘される「RAM 1人にROM10人」
 - フォーラムへの書き込み・チャットでのおしゃべり：情報の受信が多く、発信が少ない。
 - 電子掲示板 79% - 19%
 - フォーラム 62% - 30%
 - チャット 16% - 11%

- 川上（1990）「コンピュータ・コミュニケーションによるネットワーク形成に関する研究：オンラインコミュニティの可能性」『情報研究』11, pp. 129-147.
- ネットワーク加入者 125,000人に対して、電子会議での発言経験者（発信経験者）は15,000人（およそ12%）
- 「書き込みにくさ」の問題を指摘

	カウンタ	記事数	書き込み率
01	327	44	13.5%
02	236	50	21.2%
03	343	37	10.8%
04	228	36	15.8%
05	269	57	21.2%
06	180	17	9.4%
07	200	29	14.5%
08	251	50	19.9%
09	194	24	12.4%
10	145	10	6.9%
■全体：	2373	354	14.9%

カウンタ数を参照回数と想定して考える。

- Content and relationship levels
- 1 から : どのコミュニケーションも関わり合いを伴い、それゆえコミュニケーションは関係を定義する
 - コミュニケーションは情報を伝達すると同時に行動を規定する。
 - 「報告」と「命令」 (Bateson, 1951)
 - 「内容」と「関係」

- 徐々に、なめらかにクラッチをゆるめましょうね。
- そんなふうにクラッチをゆるめたら、トランスミッションが一発でこわれるよ。
 - 「報告」の側面ではほぼおなじ情報内容
 - 「命令」の側面では全くことなった関係性

- 自発的で“良い”関係になればなるほど、関係性についてはあまり意識しない（できない）。
- “良くない”関係は、関係（関係性）の性質に恒常的に取り組むことによって特性化され、内容的な側面は重要性をうしなっていく。
 - 関係性（関係の意味）は、かならずしも明確化されていない。

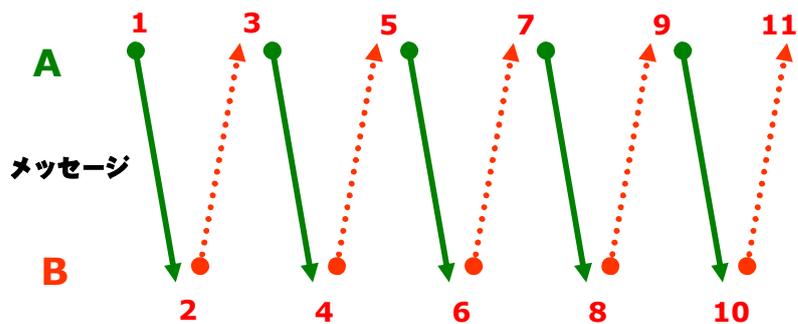
- コミュニケーションについてのコミュニケーション
 - 「これは命令だ」
 - 「ぼくは冗談を言っているだけだ」
 - 関係は非言語的な表現や、コミュニケーション活動が生起する場所の文脈によって理解される。

- Punctuation of sequence of events
- 外部の観察者に対しては、一連のコミュニケーションのつながりは、絶え間ない交換の連続として見られる。
 - コミュニケーションは、〈プロセス〉である
 - 「はじまり」と「おわり」をどのように理解するか

- 相互作用の参加者は、「連続した事象の分節化」をつねにもたらす。
 - 分節化の結果、どちらかが指導的、支配的、依存的、あるいはそれらに似たような状態にあるように見える。
 - 分節化が行動的な事象を組織化する。
 - 文化として、分節化の因習を共有している。
 - たとえば：リーダーとフォロアー

Watzlawickらによる
コミュニケーションのモデル

17|30



Pragmatics of Human Communication (1967)

keio university fklab

ことなる分節化とリアリティ

18|30

- 一連の事象をどのように分節化するか、についての不一致の問題
- メタ・コミュニケーションをおこなう能力の必要性

私はお前が小言を言うから引っ込むのだ

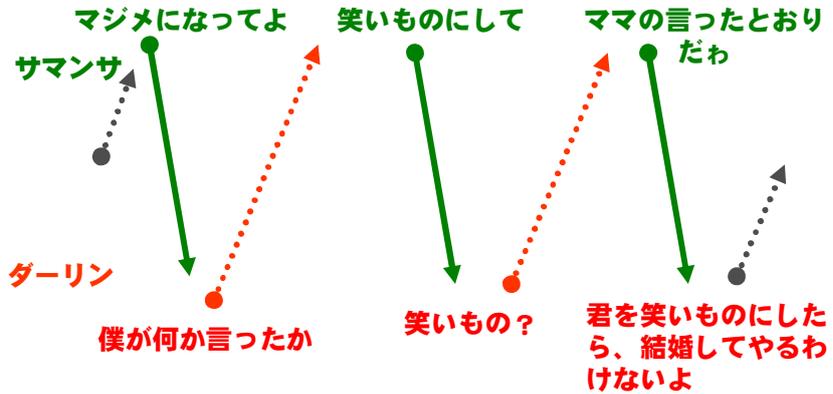
私はあなたが引っ込むから小言を言うのだ



keio university fklab

例：サマンサとダーリン

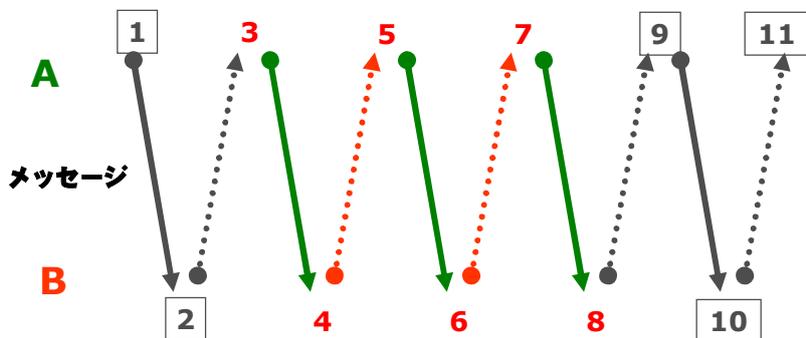
19|30



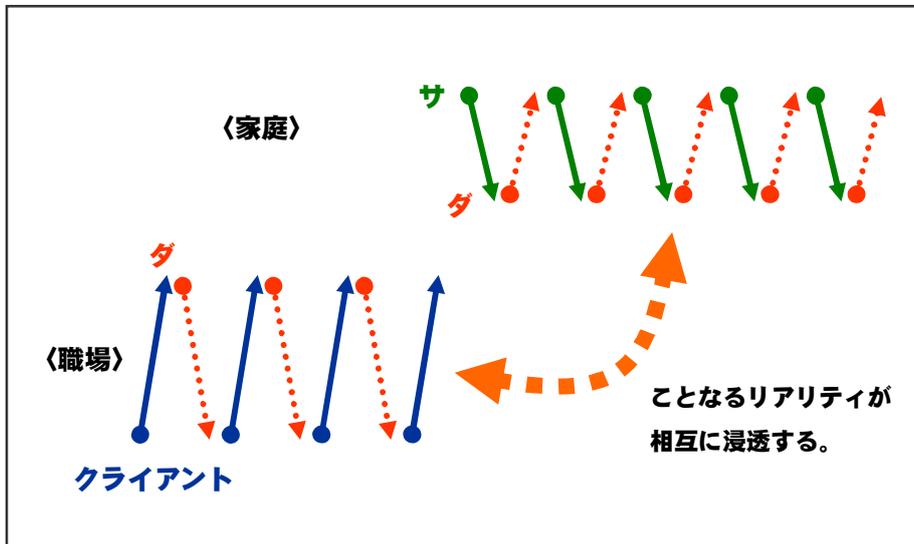
keio university fklab

時間的範囲（視野）をどう考えるか

20|30



keio university fklab



- 関係性は、コミュニケーションのプロセスをどのように「区切る」かによって、多様に理解できる。
- また、ことなる〈場〉における関係性は連動している場合が多い。

- Digital and analogic communication
- デジタルとアナログ
- 内容（メッセージ）と関係性

数字の“5”の中に“5”らしいものが特にあるわけではなく、“テーブル”という言葉の中に“テーブル”らしいものが特にあるわけではない。Bateson & Jackson

- 非言語的コミュニケーション
 - 姿勢・ジェスチャー・表情・声（トーン）・リズム・抑揚

- デジタル的コミュニケーションは、論理的（ある程度の再現性がある）だが、関係性の意味づけは容易ではない。
- アナログ的コミュニケーションは、関係性の意味づけが可能であるが、曖昧さを排除した定義は容易ではない。

- Symmetrical and complementary
- 対照的なコミュニケーション
- 相補的なコミュニケーション

- **対照的な関係性**
 - 「同一性」にもとづいて規定される
- **相補的な関係性**
 - 「差異」にもとづいて規定される
 - 社会的・文化的文脈によって規定されることが多い（母と子；患者と医者；学生と教員）

- コミュニケーションせざるをえない
- コミュニケーションはつねに関係性を示唆する
- 「はじまり」と「終わり」は流動的
- アナログの意味づけの重要性
- 個人の〈位置〉は、関係性によって相対的に決まる

- コミュニケーションせざるをえない
- 教師的言語・メタファー
- 時間的・物理的制約による分節化
- メタ・コミュニケーション（授業についてのコミュニケーション）
- 対人的？（メディアを介したコミュニケーションの可能性）

